



雜 詠

丹 羽 七 郎

歌 かつぎ馬で 來る 野良水 温む

和賀中央耕地整理

水門に 番小屋 建てん 春の 雨

朝雨の雪になりゆく静かさよ

黒澤尻にて

みぞれ降る谷を下り来て櫻かな

藁塚と藁屋とありて杏咲く

トラツクの砂立て去るや花曇

藁塚の三つ四つありて冬構

屠蘇の客打連れて爐に高笑ひ

山越に道連れ来るや梅の客

砂利探の姿は見えす蟬の聲

文苑